2025年度（第2次）神戸市外国語大学大学院 入学試験

日本アジア言語文化専攻（日本文化領域）

（1）以下の（A）から（M）の語句のなかから四つを選択し、説明してください。

(A) 『明六雑誌』
(B) 芥川龍之介
(C) 警察予備隊
(D) 竹内好
(E) いわゆる「河野談話」(1993年)
(F) フィルターバブル現象
(G) ロバート・パットナム
(H) 渡邊恒雄
(I) 佐藤春夫
(J) ウーマン・リブ運動（1960年代後半から1970年代にかけてのもの)
(K) 国民国家論
(L) 新しい歴史教科書をつくる会
(M) バーチャルYouTuber（VTuber)

（2）以下の（ア）～（ウ）の設問のなかから二つを選択し、解答してください。

（ア）明治維新以後の日本の近代化は、日本語の文体にも大きな変化をもたらしました。現代口語文の基盤となった言文一致体の登場は、その最も代表的な例と見ることができます。他方、江戸期まで一般的だった候文の文体が漢文訓読体（今体文・近体文）へと置き換わっていくなど、明治期は漢語・漢文的な文章表現が普及した時期であるとも言えます。では明治以降、漢語・漢文的な文章表現はなぜ、どのようにして普及したのでしょうか。当時の歴史的背景に触れながら記述してください。

（イ）ヨーロッパが主な戦場となって戦われた第一次世界大戦の経験は、「総力戦」と呼ばれる新たな戦争の形態を世界に認知させたと言われます。日本もその例外ではなく、とりわけアジア・太平洋戦争期にあたる1930年代以降には、「総力戦」の影響が至るところにおよんだと考えられています。では、「総力戦」が20世紀の日本におよぼした影響とは、果たしてどのようなものだったのでしょうか。最初に「総力戦」の定義づけを行い、そのうえで具体的な出来事、政策・制度、組織、人名、思想、時期などに触れながら記述してください。

（ウ）近代社会にとっての自然環境は、一方では開発の対象であり、他方では保護の対象でした。当然ながら、社会と自然環境との関係は、時代と場所によって多様なものでありえます。では、1955年から現代にいたるまで、日本社会と自然環境との関係はどのように変化してきたと言えるでしょうか（ここではいわゆる「高度経済成長」の起点として1955年を仮定しています)。具体的な出来事、人名、思想、年代を必ず入れて、記述してください。